

日本フードシステム学会秋季研究会の報告

日時：平成 24 年 11 月 17 日（土）13：00～18：00

場所：東京大学 弥生講堂一条ホール

出席者：合計 91 名：学会会員 27 名、非会員 64 名（研究者 16 名、企業 48 名、行政・市民 27 名）
ワークショップ参加者 38 名

2012 年度 FCP 普及・戦略研究会との合同開催（農林水産省後援）

■研究会テーマ 「フード・コミュニケーションの未来」

■プログラム ＊敬称略

1. 日本フードシステム学会会長挨拶

斎藤 修（千葉大学大学院）

2. フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局 挨拶

西 経子（農林水産省食料産業局 企画課食品企業行動室長）

3. 発表

1) 「フード・コミュニケーション：FCP から発展した新たな概念」

中嶋康博（東京大学大学院）

2) 「フード・コミュニケーション・プロジェクト：FCP 研究会・勉強会の平成 24 年度の活動について」

西 経子（農林水産省食料産業局 企画課食品企業行動室長）

3) 「FCP 地域ランチにおける産学官連携の取組：岩手ランチの取組から」

塩谷未知（青森中央学院大学）

4) 「企業の信頼指標構築の取組：FCP 協働の着眼点を利用して」

細野ひろみ（東京大学大学院）

5) 「FCP における協働の枠組みの構造と発展可能性」「ワークショップの進め方の説明」

神井弘之（政策研究大学院大学）

4. ワークショップ「産学官連携による食信頼向上へ向けた新たな取組の可能性」

5. 閉会挨拶

安倍澄子（日本女子大学）

※司会進行 佐藤和憲（岩手大学）

<ワークショップ概要>

ワークショップでは、6つのグループに分かれて、これまで FCP でのワークショップの実施経験が豊富なファシリテーターによる進行で、食の信頼向上のための産学官連携活動の可能性と新たな課題「フード・コミュニケーション」について議論が行われた。

具体的な進め方としては、先の 5つの講演の発表内容で「大切だと思うこと」「興味をもったこと」をそれぞれが発表・共有した後、今後、産学官連携で「一緒にできること」「期待すること」を発表・とりまとめを行った。グループでの議論が終了した後、全体で集合し、各グループの議論の結果を発表した。主な結果は以下のとおり。

- FCP の普及にあたっては、消費者も巻き込んだ、社会としての価値観の共有が必要とし、多様なステークホルダーが協働して価値創造していく可能性について議論がされた。
- 食の価値の判断は、その本質がどうであれ、外部からの評価によって大きく左右されしまう。また、食の安全は、食の価値を考えるうえで基礎となる要素である。食品に関わる事業者は、有事の時ばかりでなく、平常時から、食の安全に関する取組をきちんと伝えられるよう、また、それを評価できるようなコミュニケーションをしていくことが重要である。これらのことを踏まえて、公共財としての FCP のシステム化や社会技術の有効性に注目し、食の安全については、利害関係を越えられるのが食品業界の特徴であり、これを活かしていくことが大切である、との議論がされた。
- 現在、少子高齢化の変化において食料支出額 100 兆円→120 兆円の実現には、消費者を起点とした価値創造しかない。基盤となる食の安全確保においては「協働」して取り組み、そのフィールドに立てることで健全な「競争」ができる。6次産業化、農商工連携、フードアクションニッポンなどを縦割り行政に埋もれることなく、フード・コミュニケーションという概念でそれらを包括する新しいカテゴリーを示しうる。地域行政のための「協働の着眼点」の可能性もあるのではないか。消費者コミュニケーションは大事なテーマであり、食育という視点でも今までにない双方向のコミュニケーション体制が考えうる。つまり、消費者も参加できる新しい FC が必要ではないか、との議論がされた。
- FCP（およびツール）が社会技術として成立することを目標とするならば、FCP は多様な主体が参加出来るオープンイノベーションの場となる必要がある。その為には社会情勢の変化による様々な食の課題を取り込み、その課題解決につながる柔軟なシステムを組まなくてはならない。しかしながら、現状の FCP では参加する主体の偏りに加え、完成したツールへのアクセシビリティの低さ、再編集が出来ない構造などオープンプラットフォームとしての利用はまだ遠い。震災の影響やグローバル化といった社会の変化に対するスタンスも検討の必要がある、との議論がされた。
- 消費者へのアプローチの必要性を確認した上で、生産者への個別コンサルティングにより、思考・習慣の違いを乗り越えて動機付けを行い、安心を生むコミュニケーション技術を開発していくことの重要性が共有された。

2012年度 日本フードシステム学会秋季研究会

開催日時：2012年11月17日（土）：13:00～17:50

開催場所：東京大学農学部 弥生講堂

主催 日本フードシステム学会 後援 農林水産省、FCP普及・戦略研究会

■研究会テーマ 「フード・コミュニケーションの未来」

■プログラム

* 敬称略

13:00～ 会長挨拶

(斎藤修 千葉大学大学院)

13:10～ フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局 挨拶

(西経子 農林水産省食料産業局 企画課食品企業行動室長)

13:20～ 「フード・コミュニケーション：FCPから発展した新たな概念」

(中嶋康博 東京大学大学院)

14:00～ 「フード・コミュニケーション・プロジェクト：FCP研究会・勉強会のH24年度の活動について」

(西経子 農林水産省食料産業局 企画課食品企業行動室長)

14:25～ 「FCP地域ランチにおける産学官連携の取組：岩手ランチの取組から」

(塩谷未知 青森中央学院大学)

14:50～ 「企業の信頼指標構築の取組み：FCP協働の着眼点を利用して」

(細野ひろみ 東京大学大学院)

15:15～ 「FCPにおける協働の枠組みの構造と発展可能性」

(神井弘之 政策研究大学院大学)

15:45～

休憩・移動

16:00～ ワークショップ「産学官連携による（食信頼）新たな取組の可能性」

(10人×6チーム=60人程度)

17:45～ 副会長閉会挨拶

(安倍澄子 日本女子大学)
